



平成 17 年 11 月 14 日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ
(コード番号 8316)

平成 18 年 3 月期 中間連結業績予想の修正について

平成 18 年 3 月期中間連結業績予想（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）につきましては、業務純益（一般貸倒引当金）及び株式等損益の増加並びに与信関係費用の減少等を要因として、以下のとおり修正しますのでお知らせ致します。

なお、中間期実績を踏まえました平成 18 年 3 月期通期業績予想につきましては、中間決算発表時に公表致します。

【平成18年3月期中間連結業績予想の修正】

(単位：億円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 (平成17年5月) (A)	16,000	3,200	2,100
今回修正予想 (B)	17,570	4,630	3,920
増 減 額 (B-A)	+ 1,570	+ 1,430	+ 1,820
増 減 率 (%)	+ 9.8	+ 44.7	+ 86.7

(注) 当社単体の業績予想に修正はありません。

以 上

(ご参考)

1. 三井住友銀行の単体業績予想 (平成18年3月期中間)

(単位: 億円)

	今回予想(①)	前回予想(②)	増減額 (①-②)
業務純益(一般貸倒引当前)	4,740	4,300	+ 440
経常利益	3,590	2,400	+ 1,190
中間純利益	2,980	1,300	+ 1,680
与信関係費用	△ 1,300	△ 1,600	+ 300
株式等損益	250		

【業務純益(一般貸倒引当前)】

◇ 債券関係損益や投信販売収益が好調であったこと等により、前回予想比440億円増益の4,740億円となる見込み。

【与信関係費用】

◇ オフバランス化等の最終処理コストの戻入が発生したことや、取引先企業の再建が着実に進展したこと等により、前回予想比300億円減少の1,300億円となる見込み。

【経常利益】

◇ 上記要因に加え、株式等損益約250億円の計上等により、前回予想比1,190億円増益の3,590億円となる見込み。

【中間純利益】

◇ 経常利益の増益に加え、前回予想において法人税等及び法人税等調整額を保守的に見込んでいたこと等により、前回予想比1,680億円増益の2,980億円となる見込み。

<参考> 三井住友フィナンシャルグループの連結業績予想 (平成18年3月期中間)

(単位: 億円)

	今回予想(①)	前回予想(②)	増減額 (①-②)
経常利益	4,630	3,200	+ 1,430
中間純利益	3,920	2,100	+ 1,820

連結中間純利益は、三井住友銀行(単体)の増益を主因として、前回予想比1,820億円増益の3,920億円となる見込み。

2. 三井住友銀行の金融再生法開示債権の見込（平成17年9月末、単体）

（単位：億円、％）

	17/9末見込(①)	17/3末実績(②)	増減額 (①－②)
金融再生法開示債権	14,100	18,246	△ 4,146
不良債権比率	2.5%	3.3%	△ 0.8%

17/9末の金融再生法開示債権は、不良債権の更なる削減努力、取引先企業の再生の進展等により、17/3末比約4,000億円減少。
不良債権比率も2.5%に低下する見込み。

3. 三井住友銀行のその他有価証券評価損益の見込（平成17年9月末、単体）

（単位：億円）

	17/9末見込(①)	17/3末実績(②)	増減額 (①－②)
その他有価証券評価損益	8,510	6,516	+ 1,994
株式	9,450	6,673	+ 2,777
債券	△ 800	77	△ 877
その他	△ 140	△ 234	+ 94

17/9末のその他有価証券評価損益は、株価上昇に伴う株式評価損益の増加により、17/3末比約2,000億円増加する見込み。

4. 三井住友フィナンシャルグループの連結自己資本比率の見込（平成17年9月末）

	17/9末見込	17/3末実績
連結自己資本比率	11%程度	9.94%

17/9末の連結自己資本比率は、連結中間純利益の計上等に伴う自己資本の増加により、11%程度となる見込み。

以上

本資料に記載された予想は、本日現在において判明している情報を前提として作成されたものであります。実際の業績は、確定時点まで、今後の様々な要因によって予想対比変化する可能性があることにご留意ください。